

■児童・生徒の学力の状況

- 「板橋区学習ふりかえり調査」及び「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、国語では「主語・述語」を中心とした言葉のきまり、漢字の成り立ち、算数では、概数や分数、単位量あたりの大きさの分野での平均正答率が低い。
- 問題解決に向けて、自分の意見や考えを相手に伝える活動を増やしてきたが、考える力、考えたことを書いたり・発表したり表現する力は十分に育っていない。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 児童に自ら考えて問題を解く力、表現する力を身に付けさせるため、問題提示の仕方や内容を工夫する。
- 児童一人ひとりが自分の考えを話し、友達と意見交流する中で、立場を考えたり、思いを感じて、多様に考える幅広い力を伸ばす指導を工夫する必要がある。
- ふりかえり調査等で課題となった具体的なポイントを授業で重点的に取り上げながら、基礎的・基本的な学力の向上を図っていききたい。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 新しい学習指導要領の移行期に入り、「何ができるようになるのか」「何を学ぶのか」「どのようにまなぶのか」という視点で学びの必然性をもたせながら、学びのゴールとなる「めあて」の板書を繰り返し、板橋区授業スタンダードの徹底を図っていく。
- 東京都ベーシックドリル、板橋区フィードバックテスト等結果を活用した学習方法の整備と補習授業の充実を図る。
- 体験的な学習や問題解決的な学習を展開し、自ら学ぶ意欲や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる。
- 各教科、領域における言語活動の充実を図り、読書、読書活動の日常的、系統的な実践を工夫する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
☆授業におけるマナーとルールの徹底	基礎・基本の徹底と問題解決型の学習活動の実施	指導と評価と支援の一体化
<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始まりと終わりの時刻を教師も児童も守る。 ○一人一人の考えを大切に、間違っただけを笑ったり否定したりするのではなく、誤答を生かした授業展開をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○フィードバック学習教材の反復学習、東京ベーシックドリルを使った補習指導を通して基礎的・基本的な学習内容の徹底を図る。 ○前時までのノートを振り返ることで児童が既習事項を活用して学習に取り組めるようにする。 ○各教科の授業において、児童が考える時間、考えを伝え合う時間を十分にとり、協同学習の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の具体的なめあてを提示し、児童がめあてに対して振り返りを行う時間を毎時間設定する。

(☆は、学びのエリアで共通)

■板橋区教育委員会グランドデザイン2017の実現に向けた取組

確かな学力の定着	教員の指導力向上	豊かな心と健やかな体の育成	「チーム学校」 保幼小中連携教育の推進
<ul style="list-style-type: none"> ☆学習のねらいの明示と振り返り、まとめを毎時間行い、「板橋区 授業スタンダード」に基づいた授業を全学級で行う。 ○「全国学力・学習状況調査」「児童・生徒の学力向上を図るための調査」「ふりかえり調査」の結果を学力向上委員会を中心に分析し、各学年で正答率の低い分野に家庭学習や補習教室で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり児童の考えの共有化を図ったりする。 ○教職員の課題に応じ、板橋区教育支援センター主催の研修に全教員が1回以上参加するとともに校内OJTを推進し教員の指導力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の教科化に向け、考え議論する道徳の授業を全学級で行い、評価についての研修を行う。 ○アセスメントの結果を分析し、支援が必要な児童について教職員全体で共通理解を図り、学習環境を整え、個に応じた指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習の手引き」について家庭に周知し、家庭と連携して、自ら学ぶ習慣をつけ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ☆学びのエリアで授業規律について共通化し、9年間を通じて落ち着いた環境の中で学習に取り組めるようにする。

(☆は、学びのエリアで共通)